平成 26 年 5 月 14 日

各　位

会 社 名　オンコリスバイオファーマ株式会社
代表者名　代 表 取 締 役 社 長　　浦田　泰生
（コード番号：4588）
問合せ先　常　務　取　締　役　管理担当兼経理部長　六反田　靖
（TEL.03-5472-1578）

NEDO「平成 25 年度 イノベーション実用化ベンチャー支援事業」助成金採択に関するお知らせ

当社が、転移性腎細胞癌を適応症として開発を進めているエピジェネティック癌治療薬OBP-801が、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、「NEDO」という。）の「平成25年度 イノベーション実用化ベンチャー支援事業」（以下、「本助成事業」という。）に採択されましたので、お知らせいたします。

本助成事業は「研究開発型新事業創出支援プラットフォーム」の一環として、研究開発型ベンチャー企業等の有する優れた先端技術シーズや有望な未利用技術を活用した実用化開発を支援することにより、リスクを低減させ、研究開発成果を迅速に実用化・事業化に結びつけ、新規事業・雇用の創出等を促進することを目的としています。

助成事業の内容

事業の名称：転移性腎細胞癌患者に対するエピジェネティック治療薬の開発
助成期間　：平成 26 年 5 月 14 日から平成 27 年 2 月 28 日まで
助成金額　：同事業に計上された費用の 3 分の 2 以内（最大 125,313,000 円）

当社は本事業において、転移性腎細胞癌に対する新規治療薬OBP-801の開発を目的に、第 I 相臨床試験を開始するために必要な前臨床試験および米国食品医薬品局（Food and Drug Administration）への治験相談を通じて、第 I 相臨床試験の準備を進めてまいります。また、助成期間終了後にNEDOから助成金を受領する見込みです。

本事業による助成金は来年度に反映されるため、本件による本年度業績への影響はありません。

（用語解説）

OBP-801 について

OBP-801は、ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤(histone deacetylase inhibitor,HDAC阻害剤)であり、ヒストン脱アセチル化酵素を阻害します。この作用により発癌過程に強く関与する後天的な遺伝子修飾（エピジェネティック）異常を調整し、癌抑制遺伝子の発現を促すことで、最終的に細胞死に導き、抗腫瘍効果を示すことが期待されています。OBP-801は、エピジェネティックな遺伝子発現異常を標的としたエピジェネティック癌治療薬です。

腎細胞癌について

腎細胞癌患者の約 25～30％は、診断時に既に他臓器への転移を有している転移性腎細胞癌患者であり、主な転移部位は肺・骨・肝臓および脳です。腎臓のみで発症し、外科手術により切除された腎細胞癌患者の予後は良好でありますが、再発・転移を生じた腎細胞癌患者の予後は悪く、5 年生存率は約 20％と報告されています。

転移性腎細胞癌を対象とした既存の抗癌剤は、癌の腫瘍縮小、患者の生存期間の延長に一定程度寄与していますが、長期の生存率は依然として満足できるほど長いものではなく、また、これらの薬剤に対して治療抵抗性を示した患者に対してはそれ以外の治療法がないため、新たな治療法の開発が望まれています。

当社は、エピジェネティック癌治療薬OBP-801と既存の分子標的薬を併用することで、OBP-801が持つ癌抑制遺伝子発現の促進作用と既存の分子標的薬が持つ作用を組み合わせ、既存の治療薬より有効性が高く、かつ副作用が少ない治療法の開発を目指しています。

以　上